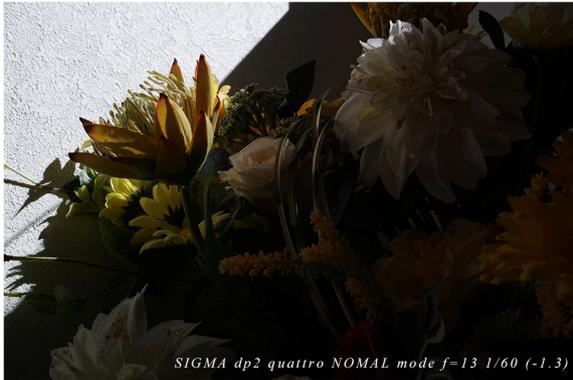


## 【report.3】 様々なシチュエーションでSFDモードを試す のコピー

### 1) 明暗のきついシーン



- ◆明暗の差が大きなシチュエーションでの比較  
上と同じように絞り気味、露出低めで撮影。  
前回の番組内で出た「HDRっぽい」が全面に出た感じの仕上がり。  
しかし、さほど違和感はない。



- ◆等倍の画像。  
暗部のディテールもしっかり出ているのは確か。

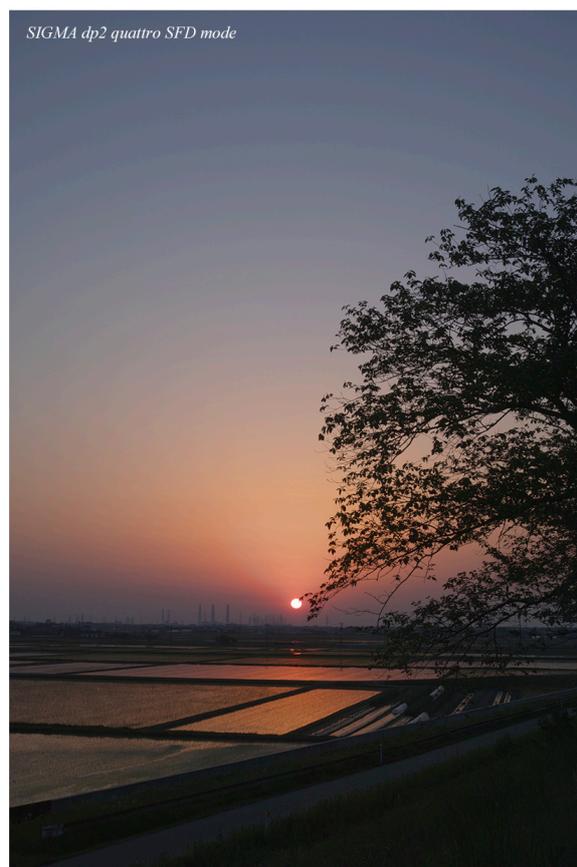
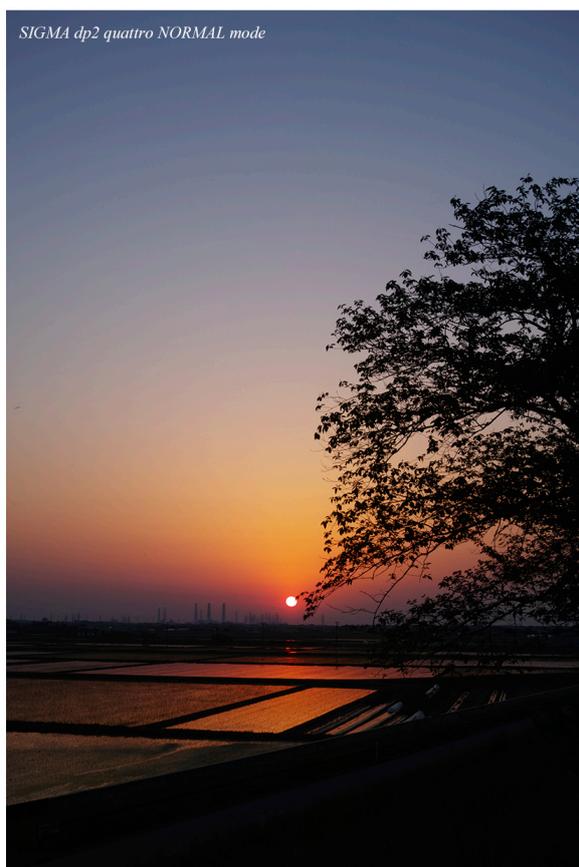
撮影情報	
撮影日:	2017/05/14 14:13:06
露出モード:	A-絞り優先オート
露出補正:	-1.3
ISO感度:	-
ホワイトバランス:	オート (色残し)
カラーモード:	スタンダード
フラッシュ:	非発光
シャッタースピード:	1/500秒 - 1/8秒
絞り値:	F13

◆撮影情報 シャッタースピードは”1/500s -1/8s”のように表示されている事が解った。

★私的結論：明暗差が適度に出て見えそう。

---

## 2) 逆光・夕日のシーン

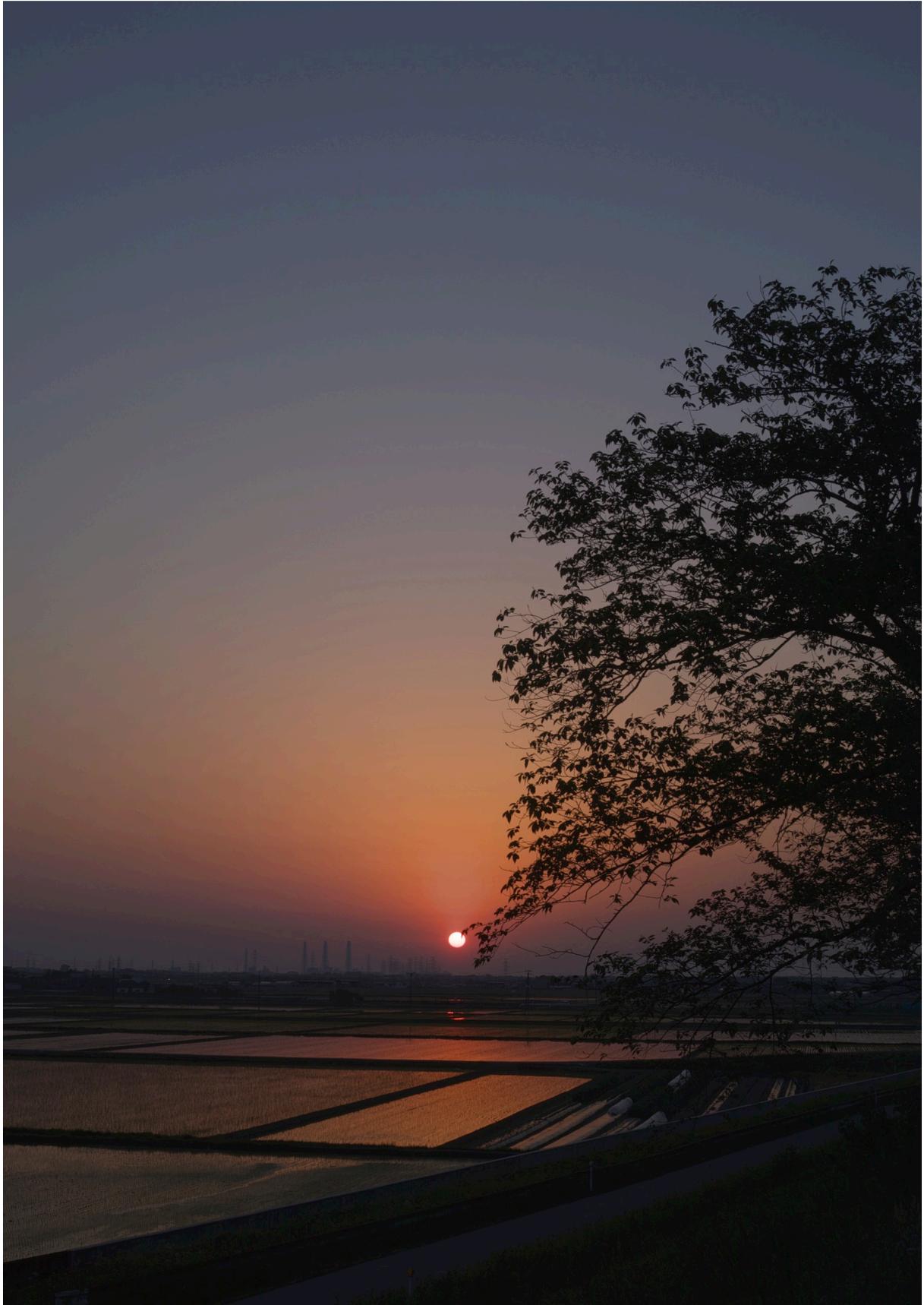


◆撮影したままでjpeg化。

SFDモードでは明るめに出るというのを考慮し、撮影時は-3.0で撮影した。

ノーマルのきつめの彩度はなくなり、ナチュラルな感じになった。



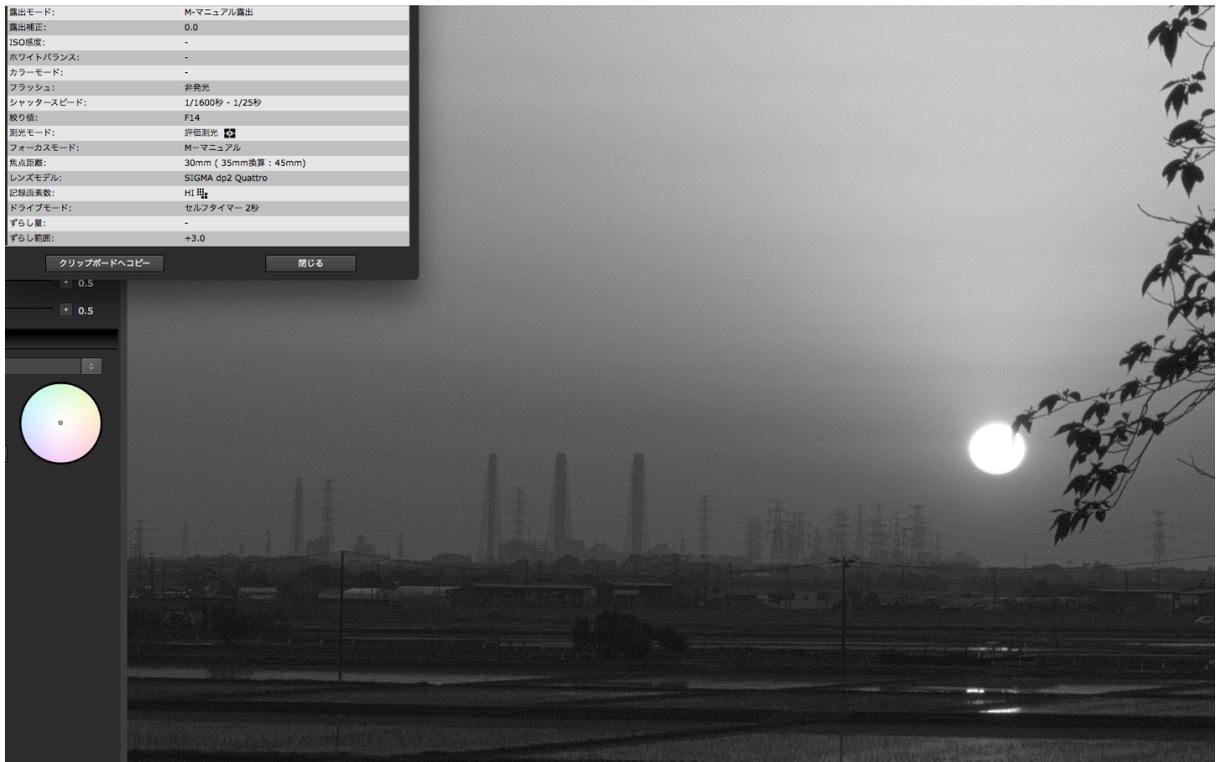


◆SFDモードで露出を-0.7にしたもの





◆上記をモノクロで現像したもの。調整はしていない。  
これなら使えそう。



◆ノイズ=粒子感と捉えれば許容範囲は広がる。

★私的な結論：薄暗い場面で使いこなすのは困難。特性をよく理解しないと振り回される。

---

3) 日中、十分な光量が確保できる状況



- ◆無調整でもニュートラルな仕上がりとなった。  
(構図が斜めなのは地面に置いて撮影したため。三脚は常に必要。)  
撮影時は露出-1.7の設定。



◆等倍で確認。遠景の輪郭もしっかり出ている。  
明るい場所なので、シャッタースピードも1/2000s~1/125sとブレにくい状況。

★私的な結論：晴天時の日中では十分利用価値あり。ただし三脚は必須。

4) 日中、十分な光量が確保できる状況2 (ゆっくりした動体を含む)



◆上記と同じ日に撮影。一見上記と同じ感じではあるが、動体が近くにある場合ややぼやけて白っぽくなってしまふ。この場合は手前の波。遠景はさほどブレていない。



◆遠景



◆近景の浪目を見てみると、時折ブロックノイズのような不思議なものが確認できる。

★私的な結論：動・静混在の場合は使い方に工夫が必要。

---

総評：・一枚あたりのデータが約300Mbと大きいためレビューウィンドウを開いてから編集までの時間が非常に長い。  
・読み込み時すでに各パラメータが大幅に振られているので調整幅が狭くなり使いにくい。  
と、やや個性的な動きをするので、現時点では私は使いこなせる自信が沸かない。